

内閣官房長官 菅 義偉 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現について（要請）

貴職におかれましては、本市はもとより沖縄県における基地問題の解決に向け、ご尽力されていることに対し、衷心より感謝申し上げます。

本市における過重な基地負担は、平成 8 年の普天間飛行場の全面返還合意から 23 年が経過しようとする今なお解消されておらず、平成 16 年 8 月には沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故が発生し、平成 29 年 12 月には普天間第二小学校のグラウンドに約 8 キログラムもの米軍ヘリの窓が落下するという重大事故が発生するなど、この間、危険性は放置され続け、市民の不安は頂点に達しております。

市民が、昼夜を問わず発生する航空機騒音に日々苦悩する中、最近では、ジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来も例年にも増して相次ぎ、最大 120 デシベルを超える騒音が何度も測定されるなど、市民生活に深刻な影響を及ぼしており、騒音被害を訴える市民からの切実な声が、年々増加の一途を辿っていることは、決して看過できるものではありません。

このような状況の中、去る 2 月 24 日に実施された「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」において、「反対」への投票者数が多数を占め、投票資格者の四分の一に達する結果となりましたが、普天間飛行場の危険性除去や基地負担軽減に触れられずに実施された今回の県民投票の結果が、普天間飛行場の固定化に繋がることは絶対にあってはならないとの強い危機感を持っております。

つきましては、9 万 8 千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、下記のとおり強く要請いたします。

記

- 一、 普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、一日も早い閉鎖・返還の実現と返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を、最重要課題として目に見える形で取り組むこと
- 一、 速やかな運用停止を実現するため、国・沖縄県・宜野湾市で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議を早期に開催するとともに、同作業部会における協議を重ね、具体的な負担軽減策を実現させるための検討に取り組むこと

外務大臣 河野 太郎 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現について（要請）

貴職におかれましては、本市はもとより沖縄県における基地問題の解決に向け、ご尽力されていることに対し、衷心より感謝申し上げます。

本市における過重な基地負担は、平成 8 年の普天間飛行場の全面返還合意から 23 年が経過しようとする今なお解消されておらず、平成 16 年 8 月には沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故が発生し、平成 29 年 12 月には普天間第二小学校のグラウンドに約 8 キログラムもの米軍ヘリの窓が落下するという重大事故が発生するなど、この間、危険性は放置され続け、市民の不安は頂点に達しております。

市民が、昼夜を問わず発生する航空機騒音に日々苦悩する中、最近では、ジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来も例年にも増して相次ぎ、最大 120 デシベルを超える騒音が何度も測定されるなど、市民生活に深刻な影響を及ぼしており、騒音被害を訴える市民からの切実な声が、年々増加の一途を辿っていることは、決して看過できるものではありません。

このような状況の中、去る 2 月 24 日に実施された「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」において、「反対」への投票者数が多数を占め、投票資格者の四分の一に達する結果となりましたが、普天間飛行場の危険性除去や基地負担軽減に触れられずに実施された今回の県民投票の結果が、普天間飛行場の固定化に繋がることは絶対にあってはならないとの強い危機感を持っております。

つきましては、9 万 8 千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、下記のとおり強く要請いたします。

記

- 一、 普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、一日も早い閉鎖・返還の実現と返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を、最重要課題として目に見える形で取り組むこと
- 一、 速やかな運用停止を実現するため、国・沖縄県・宜野湾市で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議を早期に開催するとともに、同作業部会における協議を重ね、具体的な負担軽減策を実現させるための検討に取り組むこと

防衛大臣 岩屋 毅 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現について（要請）

貴職におかれましては、本市はもとより沖縄県における基地問題の解決に向け、ご尽力されていることに対し、衷心より感謝申し上げます。

本市における過重な基地負担は、平成 8 年の普天間飛行場の全面返還合意から 23 年が経過しようとする今なお解消されておらず、平成 16 年 8 月には沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故が発生し、平成 29 年 12 月には普天間第二小学校のグラウンドに約 8 キログラムもの米軍ヘリの窓が落下するという重大事故が発生するなど、この間、危険性は放置され続け、市民の不安は頂点に達しております。

市民が、昼夜を問わず発生する航空機騒音に日々苦悩する中、最近では、ジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来も例年にも増して相次ぎ、最大 120 デシベルを超える騒音が何度も測定されるなど、市民生活に深刻な影響を及ぼしており、騒音被害を訴える市民からの切実な声が、年々増加の一途を辿っていることは、決して看過できるものではありません。

このような状況の中、去る 2 月 24 日に実施された「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」において、「反対」への投票者数が多数を占め、投票資格者の四分の一に達する結果となりましたが、普天間飛行場の危険性除去や基地負担軽減に触れられずに実施された今回の県民投票の結果が、普天間飛行場の固定化に繋がることは絶対にあってはならないとの強い危機感を持っております。

つきましては、9 万 8 千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、下記のとおり強く要請いたします。

記

- 一、 普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、一日も早い閉鎖・返還の実現と返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を、最重要課題として目に見える形で取り組むこと
- 一、 速やかな運用停止を実現するため、国・沖縄県・宜野湾市で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議を早期に開催するとともに、同作業部会における協議を重ね、具体的な負担軽減策を実現させるための検討に取り組むこと

内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）宮腰 光寛 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現について（要請）

貴職におかれましては、本市はもとより沖縄県における基地問題の解決に向け、ご尽力されていることに対し、衷心より感謝申し上げます。

本市における過重な基地負担は、平成 8 年の普天間飛行場の全面返還合意から 23 年が経過しようとする今なお解消されておらず、平成 16 年 8 月には沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故が発生し、平成 29 年 12 月には普天間第二小学校のグラウンドに約 8 キログラムもの米軍ヘリの窓が落下するという重大事故が発生するなど、この間、危険性は放置され続け、市民の不安は頂点に達しております。

市民が、昼夜を問わず発生する航空機騒音に日々苦悩する中、最近では、ジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来も例年にも増して相次ぎ、最大 120 デシベルを超える騒音が何度も測定されるなど、市民生活に深刻な影響を及ぼしており、騒音被害を訴える市民からの切実な声が、年々増加の一途を辿っていることは、決して看過できるものではありません。

このような状況の中、去る 2 月 24 日に実施された「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」において、「反対」への投票者数が多数を占め、投票資格者の四分の一に達する結果となりましたが、普天間飛行場の危険性除去や基地負担軽減に触れられずに実施された今回の県民投票の結果が、普天間飛行場の固定化に繋がることは絶対にあってはならないとの強い危機感を持っております。

つきましては、9 万 8 千名余の市民の生命・財産を守る宜野湾市長として、下記のとおり強く要請いたします。

記

- 一、 普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、一日も早い閉鎖・返還の実現と返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を、最重要課題として目に見える形で取り組むこと
- 一、 速やかな運用停止を実現するため、国・沖縄県・宜野湾市で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議を早期に開催するとともに、同作業部会における協議を重ね、具体的な負担軽減策を実現させるための検討に取り組むこと